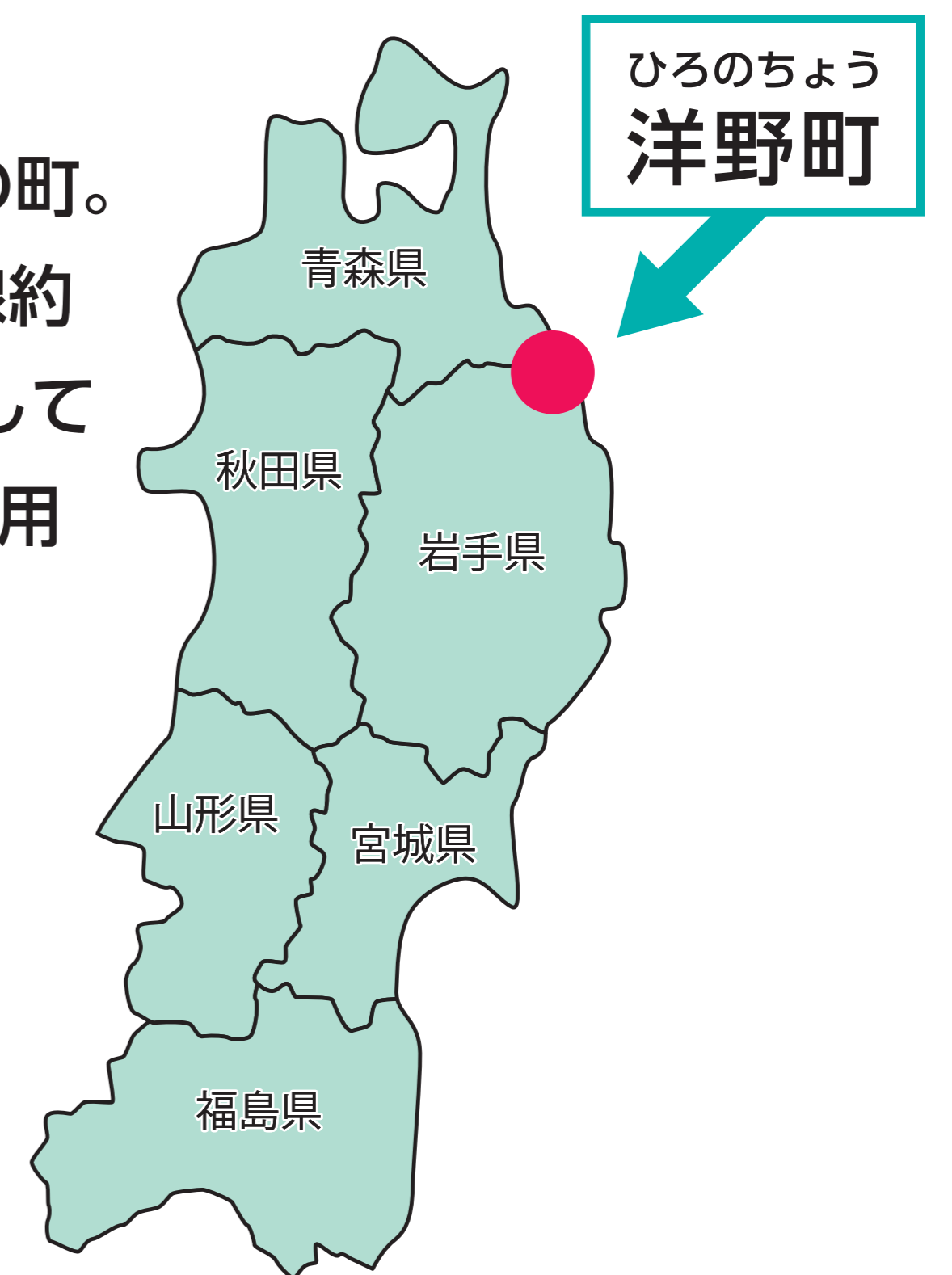


岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動

プロジェクトの概要：

洋野町は、岩手県の東北端に位置し青森県との県境に接する人口約 1.6 万人の町。三陸地方に見られるようなリアス式海岸と異なり、湾入部がない南北の海岸線約 20km に沿って、断続的に平坦な岩盤（種市層）が平均 150m 沖まで張り出しています。洋野町では、約 50 年前から、岩盤に溝を掘り、ウニやアワビ漁に利用してきました。それが増殖溝です。



干潮時でも波力により新鮮な海水が流れ込む構造にすることで、ワカメや昆布などの大型の海藻が乾燥に耐え、生育しやすい環境を創り出しています。

増殖溝やその周辺で育った海藻は、潮の干満により流れ藻として海に流出し、CO₂ を海底に固定することに貢献してきました。

また、増殖溝によって、身入りの良い高品質なキタムラサキウニが豊富に採れるようになり、ウニ漁と藻場の保全、即ち気候変動対策を両立させる持続可能な漁業が受け継がれて来ました。

クレジット販売で得られた資金は、洋野町ブルーカーボン増殖協議会（洋野町・町内 3 漁協・住友商事、及び住友商事東北で構成）が中心となり、気候変動対策、生物多様性維持発展、未来を担う子供たちの海洋教育等に活用していきます。



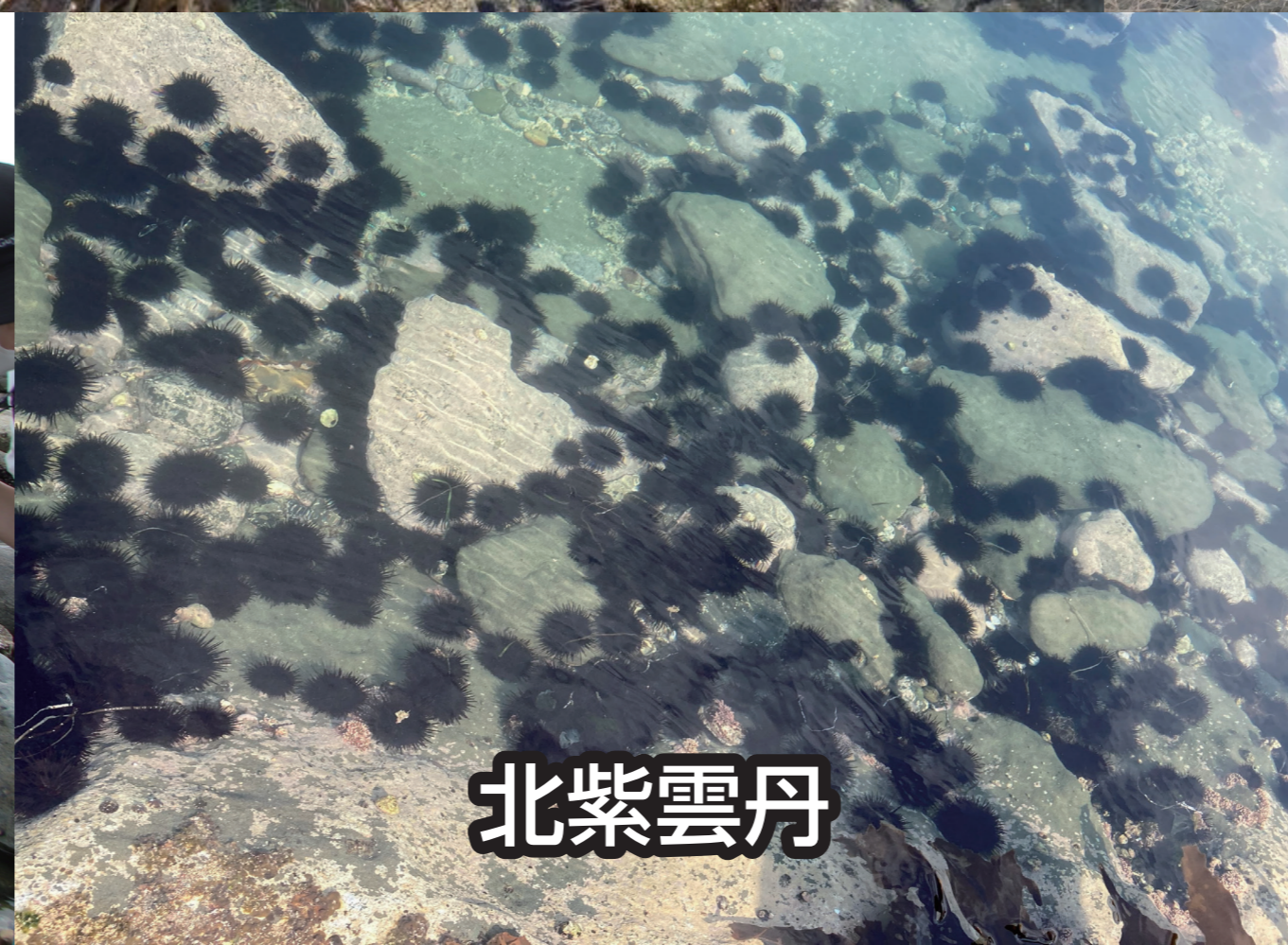
ドローン計測



住商社員による海中計測



藻場清掃活動を通じた海洋教育



北紫雲丹



植林活動を通じた里海の形成